



東小だより

学校だより 7月号
令和8年6月30日
昭島市立東小学校
校長 鈴木 正樹

「想定外」に備えた安全・安心な学校づくりを

校長 鈴木 正樹

先日は、御多用の中、授業参観・保護者会への御参加ありがとうございました。新年度が始まってからの3か月間での子供たちの成長した姿を御覧いただけたのではないのでしょうか。

また、保護者の皆様からいただいた貴重な御意見を生かして、教職員一同よりよい学校づくりに日々努めていきたいと思えます。今後とも御理解と御協力をお願いします。

早いもので4月にスタートした1学期も残り13日となりました。1学期は、「1・2年生の昭和記念公園への遠足」、「3・4年生の青梅丘陵への遠足」「5年生の八ヶ岳移動教室」、「6年生の日光移動教室」等、校外で行う学校行事も大きなけがや事故もなく安全に実施することができました。持ち物の準備や子供たちの日々の健康管理等への保護者の皆様の御理解と御協力に感謝しております。

先日、都内の小学校において、音楽室準備室で火災が発生する事故が起きました。幸い命に関わる被害にはなりませんでした。学校生活の中で「まさかこの場所で」「このような状況で」という出来事が起こり得ることを改めて考えさせられる出来事でした。

学校ではこれまでも、地震や火災、台風、不審者侵入などを想定した避難訓練を計画的に実施してきました。しかし、今回の事案は、「決められた場所で、決められた時間に起こる災害や事件・事故」だけを想定しては十分ではないことを教えてくれています。授業中だけでなく、休み時間や特別教室、校庭、登下校中など、様々な場面で起こり得る事態をこれまで以上に想定し、一人一人が自ら考え、落ち着いて安全に行動する力を育てることが大切であると改めて考える契機となりました。

また、近年は地震、集中豪雨や台風などの自然災害や熊による被害も頻発しています。さらに、不審者対応など、学校には様々な危機管理が求められています。災害や事故は、いつ、どこで発生するか分かりません。「想定外」を少しでも減らすためには、日頃から備えを重ね、状況に応じて落ち着いて判断し、行動できる力を身に付けることが何より重要になってきます。

本校では、毎月の避難訓練を単なる行事として終わらせるのではなく、「自分の命は自分で守る」ことを念頭に、その意味や目的を確認しながら全ての子供たちが真剣に取り組むように指導しています。学校では、様々な場面を想定した対応訓練や安全点検を日常的・計画的・継続的に行うことで危機管理体制の見直しに取り組んだり、研修会やOJTを通じて危機管理意識の向上を図ったりするなど、安全で安心して学べる学校づくりに努めています。

御家庭におかれましても、災害時の避難場所や連絡方法、登下校中に災害が起きた場合の行動などについて、お子様と話し合う機会を日常的・定期的に設けていただければと思います。学校と家庭、地域が連携し、子供たちの命を守る意識を共有することが、何よりも大きな力となります。これから夏休みを迎える時期となります。子供たちが安全に、そして充実した毎日を過ごせるよう、本校では引き続き安全管理の徹底に努めてまいります。

1学期も本校の教育活動への御協力と御理解をいただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。